

平成 23 年度 普及に移す農業技術（第 1 回）

- [分類] 普及技術
 [成果名] 移植水稲用初中期除草剤ゲットスターフロアブル、ゲットスタージャンボは水田雑草防除に有効である。
 [要約] 移植水稲用初中期除草剤ゲットスターフロアブルを移植後 5 日からノビエ 2.5 葉期までに 500ml/10a、ゲットスタージャンボを 300g（30g×10 パック）/10a を移植後 5 日からノビエ 2.5 葉期までに処理することで効果的な水田雑草防除が可能である。
 [担当] 農業試験場作物部・農業技術課
 [部会] 作物部会

1 背景・ねらい

省力的で除草効果の高い水稲用初中期除草剤の実用性を検討し、新しく利用できる剤として情報提供する。

2 成果の内容・特徴

- (1) 移植水稲用初中期除草剤ゲットスターフロアブルを移植後 5 日からノビエ 2.5 葉期までに 500ml/10a、ゲットスタージャンボを移植後 5 日からノビエ 2.5 葉期までに 300g(30g×10 パック)/10a を湛水散布する。

農薬登録内容

ゲットスターフロアブル

[一般名および成分含有量] テフリトリオン 6%、ピラクロニル 3.6%

[毒性] 人畜毒性：毒物、劇物には該当しない

[魚毒性] テフリトリオン：A類、ピラクロニル：A類

[対象作物に対する適登録状況]（平成 23 年 10 月 12 日現在 J P P - N E T 確認）

作物名	適用雑草名	使用方法	適応土壌	使用時期	10a 当たり 使用量	本剤の 使用回数
移植水稲	水田一年生雑草、マツバイ、ホタルイ、ウリカワ、ミズガヤツリ、ヒルムシロ、セリ、オモダカ	原液湛水散布又は水口施用	砂壤土～ 埴土	移植後 5 日～ノビエ 2.5 葉（ただし、移植後 30 日まで）	500ml/10a	1 回

ゲットスタージャンボ

[一般名および成分含有量] テフリトリオン 10.0%、ピラクロニル 6.0%

[毒性] 人畜毒性：毒物、劇物には該当しない [魚毒性]：A類

[対象作物に対する適登録状況]（平成 23 年 10 月 12 日現在 J P P - N E T 確認）

作物名	適用雑草名	使用方法	適応土壌	使用時期	10a 当たり 使用量	本剤の 使用回数
移植水稲	水田一年生雑草、マツバイ、ホタルイ、ウリカワ、ミズガヤツリ、ヒルムシロ、セリ、オモダカ	湛水散布	砂壤土～ 埴土	移植後 5 日～ノビエ 2.5 葉（ただし、移植後 30 日まで）	小包装（パック）10 個 300g/10a	1 回

3 利用上の留意点

- (1) 利用上の留意事項は、「農作物病害虫・雑草防除基準（長野県）」の除草剤の使用法（初中期除草剤）を参照する。
 (2) テフリトリオン含有剤は処理時期が早い場合は、植え付け精度が劣ったり、漏水などほ場管理が不十分な場合、薬害（初期の草丈・分げつ抑制）が生じることがあるので、活着を確認して散布する。
 (3) テフリトリオン含有剤は本県育成の多収・他用途水稲品種「ふくおこし」、「ほそおもて」に対して薬害（白化～枯死）を生じることがある。また、(独)農研機構育成の一部の多収水稲品種にも薬害を生じることがある。（詳細は(独)農研機構中央農研 2010 年 3 月 26 日付け、プレスリリース参照）

4 対象範囲

県下全域

5 具体的データ

(1) ゲットスターフロアブル

ア 平成 22 年に農業試験場で実施した試験では、移植後 5 日～ノビエ 2.5 葉期処理で除草効果が高かった（表 1）。移植後 5 日処理で軽微な薬害が認められたが、その後の生育収量への影響はなかった（表 2）。

表 1 ゲットスターフロアブルの雑草防除効果^{a)}（平成 23 年、農業試験場）

除草剤名	処理時期 ^{c)} 処理量(/10a)	ノビエ	タマガヤ ツリ	一年生 広葉 ^{d)}	マツバ イ	ホタル イ	合計	オモダカ ^{e)}
ゲットスターフロアブル	+ 5 日 500ml	0	0	0	0	0	0	(0)
	ノビエ 2.5 葉期 500ml	0	0	0	0	0	0	(0)
トップガンLフロアブル	+ 5 日 500ml	0	0	t	t	0	t	(22)
体系除草 ^{b)}	+ 0 日→+20 日 1kg+1kg	0	0	0	t	0	t	(48)
無処理	—	10.5	1.1	47.5	62.6	0.4	122.1	(0.9)

a) 除草剤各処理区の数値は対無処理比(%), 無処理区は乾物重(g/m²), 「t」は trace (痕跡) を示す

b) 体系除草はソルネット 1 キロ粒剤→マメット SM1 キロ粒剤

c) 処理時期の+は移植後日数

d) コナギ、アゼナ、ミゾハコベ、キカシグサの合計

e) 塊茎埋め込み試験, 合計より除外

試験方法: 試験場所は農業試験場水田ほ場(標高 340m、中粗粒グライ土)。品種は「あきたこまち」。中苗 3 本植(22.2 株/m²)。

代かきは 5 月 9 日、移植は 5 月 14 日。1 区 7.2 m² 2 区制。

調査方法: 移植 37 日後に調査した。

表 2 ゲットスターフロアブルによる水稻生育・収量への影響（平成 23 年、農業試験場）

除草剤名	処理時期 ^{c)} 処理量(/10a)	薬害			草丈 (cm)	茎数 (本/m ²)	穂数 (本/m ²)	出穂期 (月/日)	精籾重 (kg/10a)	体系 除草区 比(%)
		症状	程度	回復の 遅速						
ゲットスター フロアブル	+ 5 日 500ml	初期生育 抑制	微	早	55	515	484	7/28	872	105
	ノビエ 2.5 葉期 500ml	—	無	—	55	536	494	7/27	850	102
トップガンL フロアブル	+ 5 日 500ml	—	無	—	59	467	437	7/27	814	98
体系除草 ^{b)}	+ 0 日→+20 日 1kg+1kg	初期生育 抑制	微	早	58	549	468	7/27	832	100
無処理	—	—	—	—	56	278	207	7/25	281	34

b)、c)、試験方法は表 1 と同じ。

調査方法: 草丈・茎数は 7 月 1 日調査。

イ 平成 23 年に佐久市の現地ほ場で実施した試験では除草効果が高く（表 3）、薬害はなかった。

表 3 ゲットスターフロアブルの雑草防除効果^{a)}（平成 23 年、佐久農業改良普及セ）

除草剤名	処理時期 ^{c)}	処理量(/10a)	一年生広葉 ^{d)}	ホタルイ	オモダカ	合計
ゲットスターフロアブル	+ 7 日	500ml	0	11	0	6
(比較) ^{b)} クサカリテイオー 1 キロ粒剤	+ 0 日	1kg	0	15	16	14
無処理	—	—	2.5	11.2	8.0	21.7

a)、c)は表 1 と同じ

b)比較は試験区の隣接ほ場で実施

d)ミズハコベ主体

試験方法: 試験場所は佐久市桑山(標高 800m、沖積、埴壤土)。品種は「コシヒカリ」、中苗、機械移植。入水は 5 月 10 日、代かきは 5 月 26 日、移植は 5 月 30 日。1 区 9a、反復なし。

調査方法: 7 月 7 日に 50×50cm の枠サンプリングにて、処理区は複数カ所、無処理区は 1 カ所の調査を行った。

(2) ゲットスタージャンボ

ア 平成 22 年に農業試験場で実施した試験では、移植後 5 日～ノビエ 2.5 葉期処理で除草効果は高かった(表 4)。移植後 5 日処理で軽微な葉害が認められたが、その後の生育収量への影響はなかった(表 5)。

表 4 ゲットスタージャンボの雑草防除効果^{a)}(平成 23 年、農業試験場)

除草剤名	処理時期 ^{c)} 処理量(/10a)	ノビエ	タマガヤ ツリ	一年生 広葉 ^{d)}	ホタルイ	合計	オモダカ ^{e)}
ゲットスタージャンボ	+ 5 日 300g	0	0	0	0	0	(0)
	ノビエ 2.5 葉期 300g	0	0	0	0	0	(0)
トップガンLフロアブル	+ 5 日 500ml	0	0	t	0	t	(43)
体系除草 ^{b)}	+ 0 日→+20 日 1kg+1kg	0	0	0	1	t	(137)
無処理	—	13.5	t	25.0	40.7	79.2	(0.6)

a)～e)、試験方法、調査方法は表 1 と同じ。

表 5 ゲットスタージャンボによる水稻生育・収量への影響(平成 23 年、農業試験場)

除草剤名	処理時期 ^{c)} 処理量(/10a)	葉害			草丈 (cm)	茎数 (本/m ²)	穂数 (本/m ²)	出穂期 (月/日)	精籾重 (kg/10a)	体系 除草区 比(%)
		症状	程度	回復の 遅速						
ゲットスター ジャンボ	+ 5 日 300g	初期生育 抑制	微	早	57	549	516	7/27	918	107
	ノビエ 2.5 葉期 300g	—	無	—	55	646	542	7/26	846	99
トップガンL フロアブル	+ 5 日 500ml	—	無	—	59	467	437	7/27	814	98
体系除草 ^{b)}	+ 0 日→+20 日 1kg+1kg	初期生育 抑制	微	早	58	549	468	7/27	832	100
無処理	—	—	—	—	56	278	207	7/25	281	34

b)、c)、試験方法は表 1 と同じ。

調査方法：草丈・茎数は 7 月 1 日調査。

イ 平成 23 年に飯山市の現地ほ場で実施した試験では除草効果が高く(表 6)、葉害はなかった。

表 6 ゲットスタージャンボの雑草防除効果^{a)}(平成 23 年、北信農業改良普及セ)

除草剤名	処理時期 ^{c)}	処理量(/10a)	一年生広葉 ^{d)}	ホタルイ	オモダカ	合計
ゲットスタージャンボ	+ 7 日	300g	0	0	0	0
無処理	—	—	0.3	0.9	2.6	3.8
(比較) ^{b)} スパークスター 1 キロ粒剤	+ 1 日	1 kg	—	0	1	1
(比較) ^{b)} 無処理	—	—	0	3.0	7.8	10.8

a)、c)は表 1 と同じ

b)比較は試験区の隣接ほ場で実施

d)アゼナ主体

試験方法：試験場所は飯山市常盤(標高 315m、沖積、埴土)。品種は「コシヒカリ」、中苗、機械移植。入水は 5 月 16 日、代かきは 5 月 18 日、移植は 5 月 23 日。1 区 14a、反復なし。

調査方法：6 月 24 日に 50×50cm の枠サンプリングにて、処理区は複数カ所、無処理区は 1 カ所の調査を行った。

6 特記事項

[公開] 制限なし。

[課題名、研究期間、予算区分]

普通作物の新規農薬等の効果試験、平成 22 年度(2010 年度)、民間受託
県植物防疫協会委託試験(普及展示ほ)、平成 23 年度(2011 年度)、その他